



『 Getting started with Cloud Compliance for Cloud Volumes ONTAP 、 On-Premises ONTAP 、 or Azure NetApp Files 』 Cloud Manager

Tom Onacki, Ben Cammett
May 06, 2021

This PDF was generated from https://docs.netapp.com/us-en/occm/task_getting_started_compliance.html on May 17, 2021. Always check docs.netapp.com for the latest.

目次

『 Getting started with Cloud Compliance for Cloud Volumes ONTAP 、 On-Premises ONTAP 、 or Azure NetApp Files 』	1
クイックスタート	1
スキャンするデータソースを検出しています	2
Cloud Compliance インスタンスの導入	2
作業環境での Cloud Compliance の有効化	2
Cloud Compliance がボリュームにアクセスできることの確認	3
ボリュームのコンプライアンススキャンの有効化と無効化	5
オンプレミスの ONTAP システムからバックアップファイルをスキャンする	6
データ保護ボリュームをスキャンしています	7

『 Getting started with Cloud Compliance for Cloud Volumes ONTAP 、 On-Premises ONTAP 、 or Azure NetApp Files 』

Cloud Compliance for Cloud Volumes ONTAP 、 オンプレミスの ONTAP システム、 Azure NetApp Files の導入を開始するには、いくつかの手順を実行します。

クイックスタート

これらの手順を実行すると、すぐに作業を開始できます。また、残りのセクションまでスクロールして詳細を確認することもできます。

目的のデータが含まれているデータソースを検出します をクリックしてください

ボリュームをスキャンする前に、 Cloud Manager でシステムを作業環境として追加する必要があります。

- Cloud Volumes ONTAP システムの場合、これらの作業環境はすでに Cloud Manager で使用可能になっている必要があります
- オンプレミスの ONTAP システムでは、 ["ONTAP クラスタは Cloud Manager で検出する必要があります"](#)
- Azure NetApp Files の場合、 ["構成を検出するには、 Cloud Manager が設定されている必要があります"](#)。

Cloud Compliance インスタンスを導入します

["Cloud Manager に Cloud Compliance を導入"](#) インスタンスが展開されていない場合。

Cloud Compliance を有効にし、スキャンするボリュームを選択します

コンプライアンス * をクリックし、 * 構成 * タブを選択して、特定の作業環境でボリュームのコンプライアンススキャンを有効にします。

ボリュームへのアクセスを確認

Cloud Compliance が有効になったので、すべてのボリュームにアクセスできることを確認します。

- クラウドコンプライアンスインスタンスには、各 Cloud Volumes ONTAP サブネット、 Azure NetApp Files サブネット、 オンプレミスの ONTAP システムへのネットワーク接続が必要です。
- Cloud Volumes ONTAP のセキュリティグループは、クラウドコンプライアンスインスタンスからのインバウンド接続を許可する必要があります。
- 次のポートが Cloud Compliance インスタンスに対して開いていることを確認します。
 - NFS –ポート 111 および 2049。
 - CIFS の場合 - ポート 139 および 445
- NFS ボリュームのエクスポートポリシーで、 Cloud Compliance インスタンスからのアクセスを許可する必要があります。
- CIFS ボリュームをスキャンするには、 Cloud Compliance で Active Directory のクレデンシャルが必要です。

コンプライアンス * > * 構成 * > * CIFS クレデンシャルの編集 * をクリックし、クレデンシャルを入力します。

スキャンするボリュームを管理します

スキャンするボリュームを選択または選択解除すると、Cloud Compliance によるスキャンが開始または停止します。

スキャンするデータソースを検出しています

スキャンするデータソースがまだ Cloud Manager 環境にない場合は、ここでキャンバスに追加できます。

Cloud Volumes ONTAP システムは、Cloud Manager のキャンバスですでに使用できるようになっている必要があります。オンプレミスの ONTAP システムには、が必要です ["これらのクラスタは Cloud Manager で検出されます"](#)。Azure NetApp Files の場合は、["構成を検出するには、Cloud Manager が設定されている必要があります"](#)。

Cloud Compliance インスタンスの導入

["Cloud Compliance の導入"](#) インスタンスが展開されていない場合。

Cloud Volumes ONTAP やオンプレミスの ONTAP システムをスキャンする場合、クラウドまたはオンプレミスの場所に Cloud Compliance を導入できます。

Azure NetApp Files ボリュームをスキャンする際にはクラウドに Cloud Compliance を導入し、スキャンするボリュームと同じリージョンに導入する必要があります。

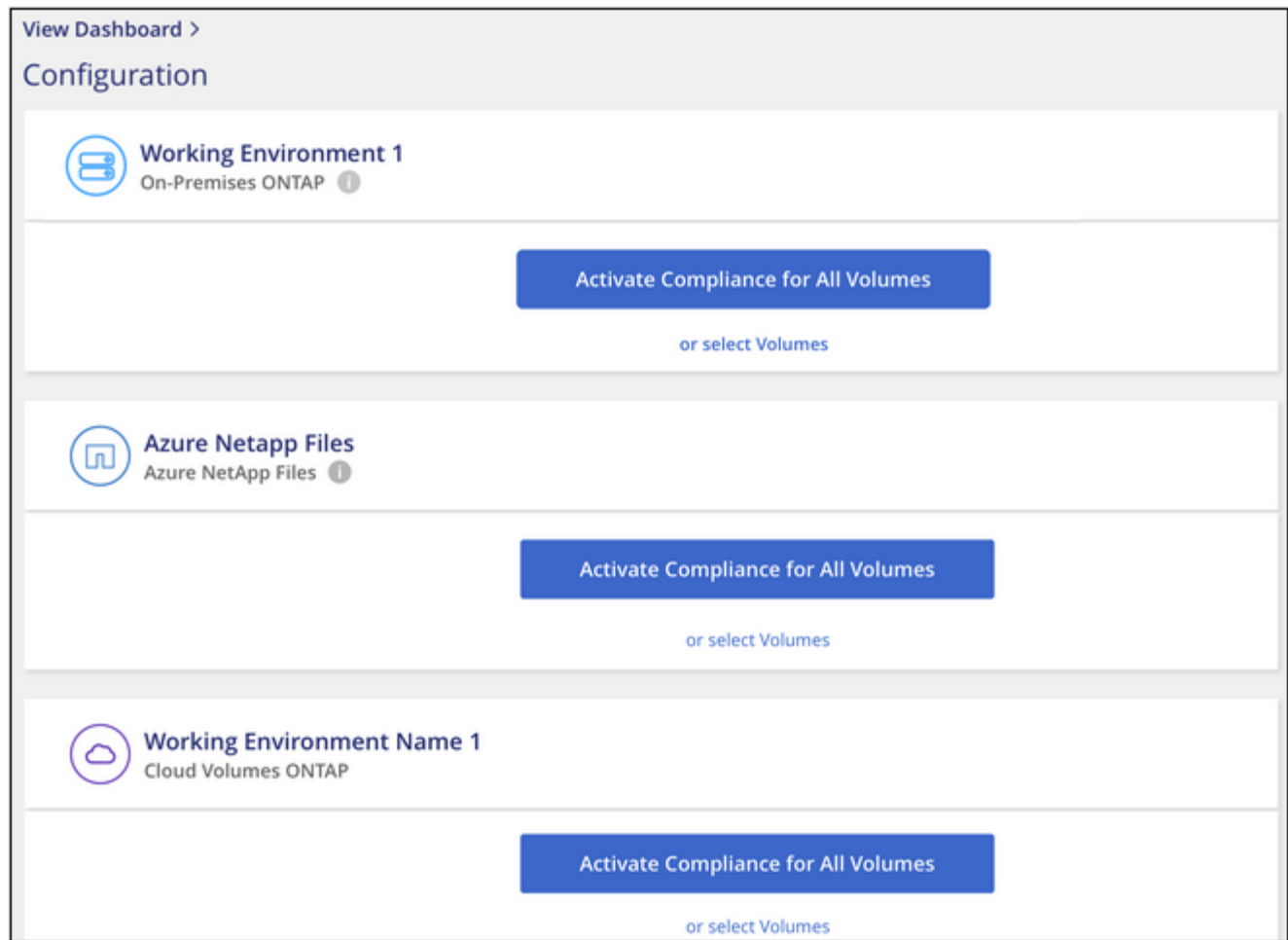
作業環境での Cloud Compliance の有効化

Cloud Volumes ONTAP システム（AWS および Azure）、オンプレミスの ONTAP クラスタ、および Azure NetApp Files で Cloud Compliance を有効にすることができます。



オンプレミス ONTAP システムで次の手順を実行すると、オンプレミス ONTAP システム上のボリュームが直接スキャンされます。すでにオンプレミスからバックアップファイルを作成している場合 ["クラウドバックアップ"](#)ではなく、クラウド内のバックアップファイルに対してコンプライアンススキャンを実行できます。に進みます [オンプレミスの ONTAP システムからバックアップファイルをスキャンする](#) バックアップファイルをスキャンしてボリュームをスキャンします。

1. Cloud Manager の上部で、* Compliance * をクリックし、* Configuration * タブを選択します。



2. 作業環境内のすべてのボリュームをスキャンするには、 * すべてのボリュームのコンプライアンスをアクティブ化 * をクリックします。

作業環境内の特定のボリュームのみをスキャンするには、 * をクリックするか、 Volumes （ボリューム） * を選択して、スキャンするボリュームを選択します。

を参照してください [ボリュームのコンプライアンススキャンの有効化と無効化](#) を参照してください。

Cloud Compliance によって、作業環境で選択したボリュームのスキャンが開始されます。結果は、 Cloud Compliance ダッシュボードで最初のスキャンが完了するとすぐに表示されます。所要時間はデータ量によって異なります。数分から数時間かかる場合もあります。

Cloud Compliance がボリュームにアクセスできることの確認

ネットワーク、セキュリティグループ、およびエクスポートポリシーを確認して、 Cloud Compliance がボリュームにアクセスできることを確認します。CIFS ボリュームにアクセスできるようにするには、 Cloud Compliance に CIFS クレデンシャルを指定する必要があります。

手順

1. クラウドコンプライアンスインスタンスと、 Cloud Volumes ONTAP 、 Azure NetApp Files 、またはオンプレミスの ONTAP クラスターのボリュームを含む各ネットワークとの間にネットワーク接続が確立されていることを確認します。

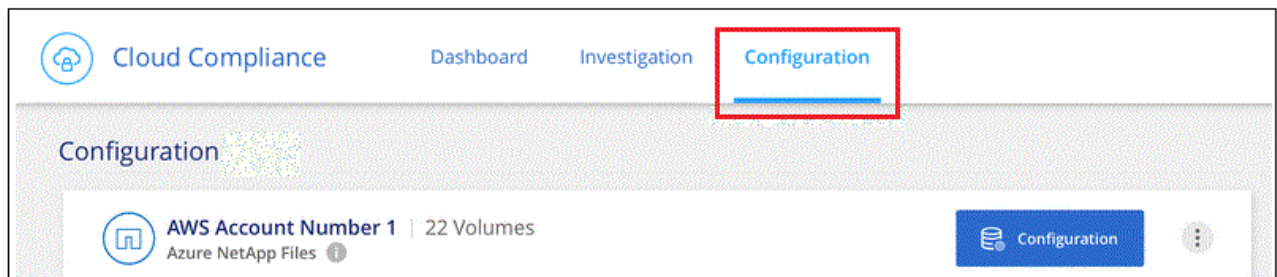


Azure NetApp Files の場合、Cloud Compliance は Cloud Manager と同じリージョンにあるボリュームのみをスキャンできます。

2. Cloud Volumes ONTAP のセキュリティグループがクラウドコンプライアンスインスタンスからのインバウンドトラフィックを許可していることを確認してください。

Cloud Compliance インスタンスの IP アドレスからのトラフィックのセキュリティグループを開くか、仮想ネットワーク内からのすべてのトラフィックのセキュリティグループを開くことができます。

3. 次のポートが Cloud Compliance インスタンスに対して開いていることを確認します。
 - NFS –ポート 111 および 2049。
 - CIFS の場合 - ポート 139 および 445
4. NFS ボリュームのエクスポートポリシーに Cloud Compliance インスタンスの IP アドレスが含まれていて、各ボリュームのデータにアクセスできることを確認します。
5. CIFS を使用する場合は、Active Directory クレデンシャルを使用して Cloud Compliance を提供し、CIFS ボリュームをスキャンできるようにします。
 - a. Cloud Manager の上部で、* Compliance * をクリックします。
 - b. [* 構成 *] タブをクリックします。

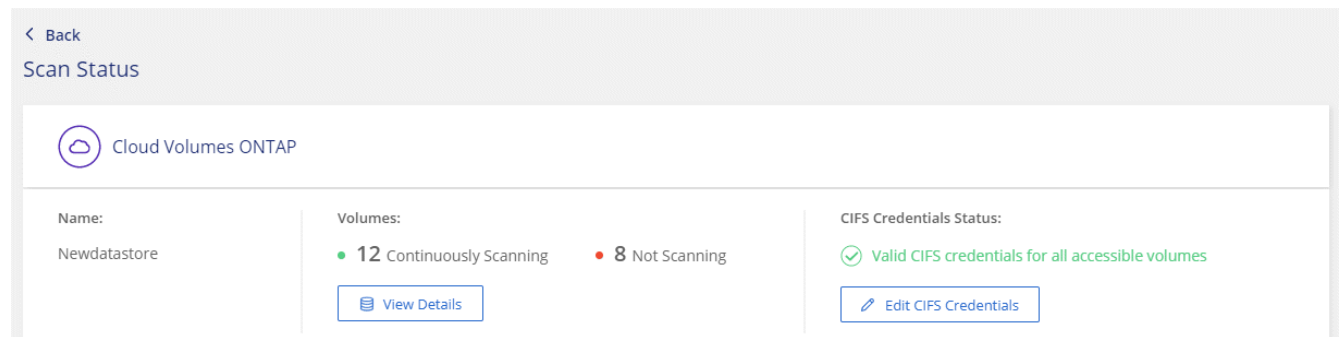


ボタンを示す [遵守] タブのスクリーンショット。"]

- c. 各作業環境について、* CIFS 資格情報の編集 * をクリックし、クラウド・コンプライアンスがシステム上の CIFS ボリュームにアクセスするために必要なユーザー名とパスワードを入力します。

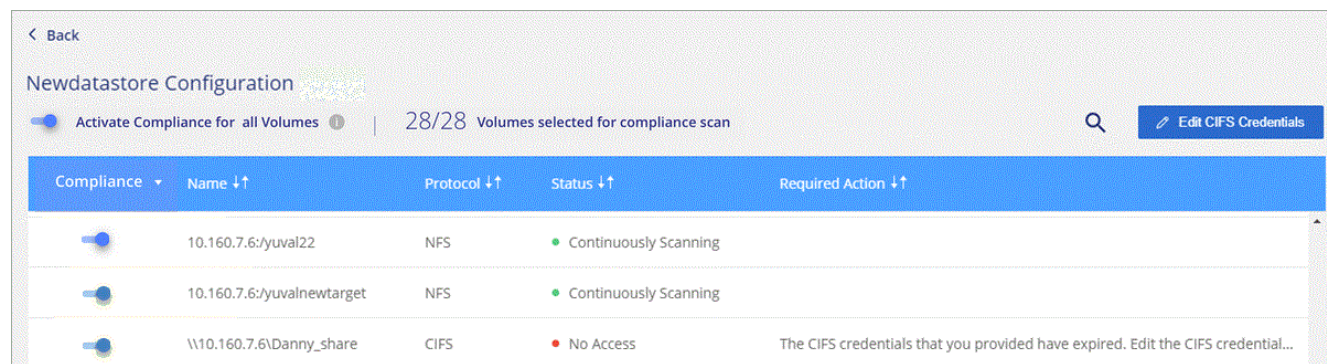
クレデンシャルは読み取り専用ですが、管理者のクレデンシャルを指定することで、Cloud Compliance は昇格された権限が必要なデータを読み取ることができます。クレデンシャルは Cloud Compliance インスタンスに保存されます。

クレデンシャルを入力すると、すべての CIFS ボリュームが認証されたことを示すメッセージが表示されます。



6. Configuration_page で、 ***View Details *** をクリックして、各 CIFS および NFS ボリュームのステータスを確認し、エラーを修正します。

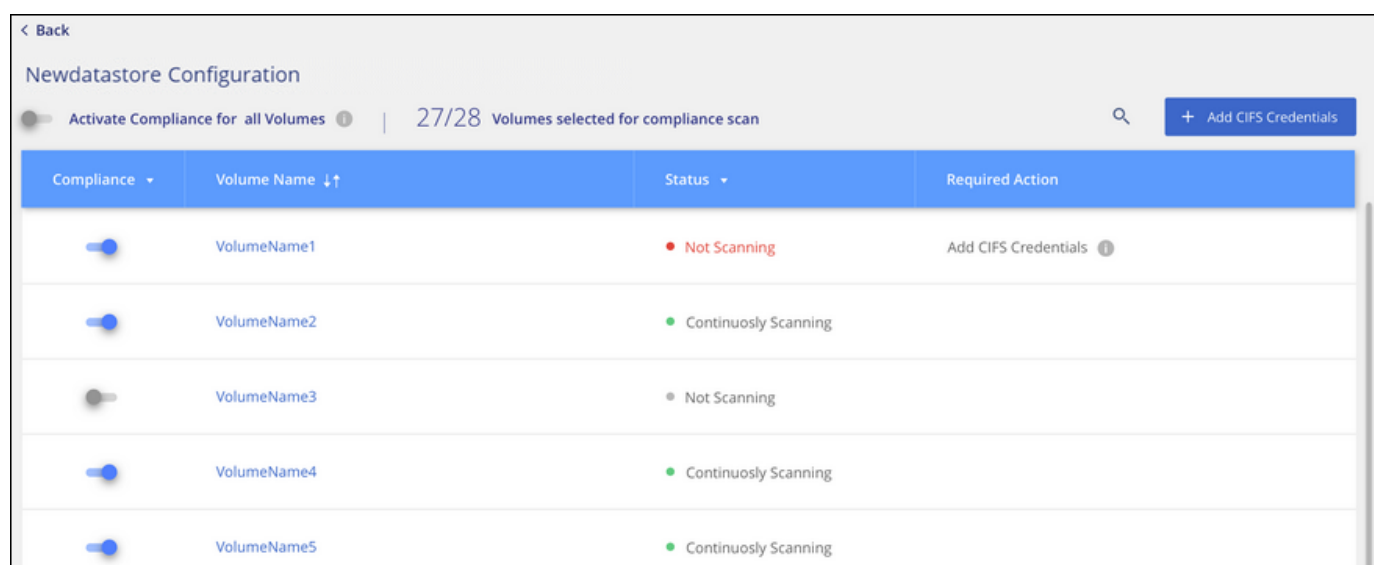
たとえば、次の図は 3 つのボリュームを示しています。 1 つは Cloud Compliance インスタンスとボリュームの間のネットワーク接続の問題が原因で Cloud Compliance がスキャンできないボリュームです。



Compliance	Name ↑↑	Protocol ↑↑	Status ↑↑	Required Action ↑↑
	10.160.7.6/yuval22	NFS	Continuously Scanning	
	10.160.7.6/yuvalnewtarget	NFS	Continuously Scanning	
	\\10.160.7.6\\Danny_share	CIFS	No Access	The CIFS credentials that you provided have expired. Edit the CIFS credential...

ボリュームのコンプライアンススキャンの有効化と無効化

作業環境内のボリュームのスキャンは、設定ページからいつでも停止または開始できます。すべてのボリュームをスキャンすることを推奨します。



Compliance	Volume Name ↑↑	Status	Required Action
	VolumeName1	Not Scanning	Add CIFS Credentials ⓘ
	VolumeName2	Continuosly Scanning	
	VolumeName3	Not Scanning	
	VolumeName4	Continuosly Scanning	
	VolumeName5	Continuosly Scanning	

終了：	手順：
ボリュームのスキャンを無効にします	音量スライダを左に動かします
すべてのボリュームのスキャンを無効にします	[すべてのボリュームのコンプライアンスを有効にする *] スライダを左に移動します
ボリュームのスキャンを有効にします	音量スライダを右に動かします
すべてのボリュームのスキャンを有効にします	[すべてのボリュームのコンプライアンスを有効にする *] スライダを右に移動します



作業環境に追加した新しいボリュームは、すべてのボリュームのコンプライアンスのアクティブ化 * 設定が有効になっている場合にのみ自動的にスキャンされます。この設定を無効にすると、作業環境で作成する新しいボリュームごとにスキャンを有効にする必要があります。

オンプレミスの ONTAP システムからバックアップファイルをスキャンする

Cloud Compliance でオンプレミスの ONTAP システム上のボリュームを直接スキャンしない場合は、2021 年 1 月にリリースされる新しいベータ機能によって、オンプレミスの ONTAP ボリュームから作成されたバックアップファイルに対してコンプライアンススキャンを実行できます。を使用してバックアップファイルを既に作成している場合は ["クラウドバックアップ"](#)この新機能を使用して、バックアップファイルに対してコンプライアンススキャンを実行できます。

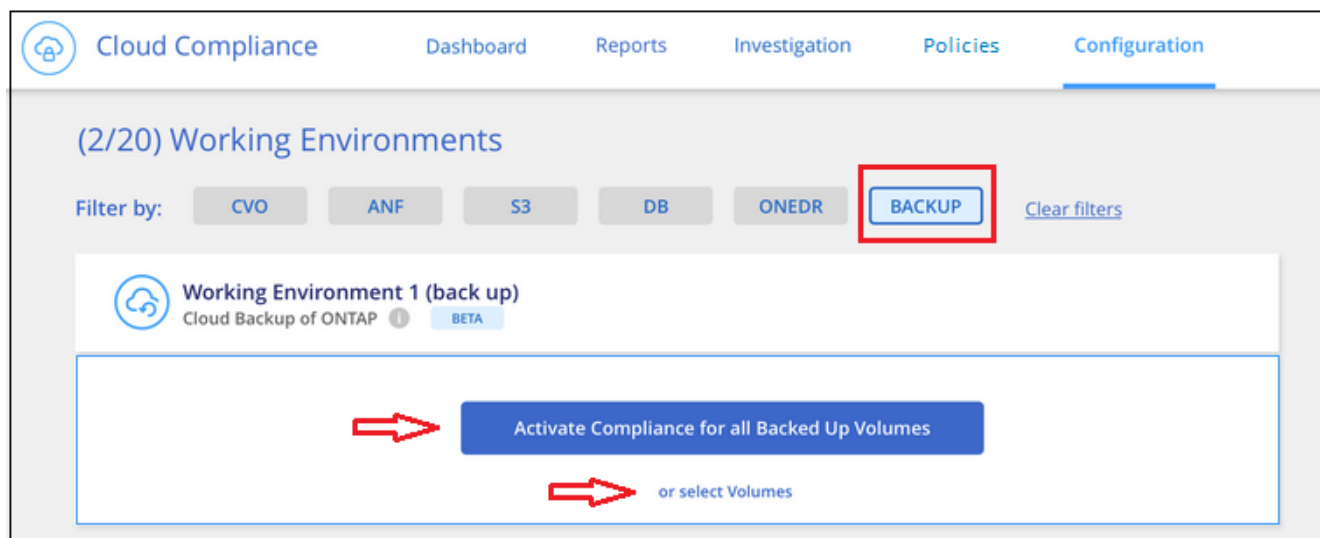
バックアップファイルで実行したコンプライアンススキャンは * 無料 * - Cloud Compliance サブスクリプションやライセンスは不要です。

- ・注：コンプライアンスがバックアップファイルをスキャンする場合、バックアップファイルへのアクセスには、リストアインスタンスから付与された権限が使用されます。通常、ファイルをアクティブにリストアしていない場合はリストアインスタンスの電源がオフになりますが、バックアップファイルをスキャンするときはオンのままになります。を参照してください ["Restore インスタンスに関する詳細情報"](#)。

オンプレミスの ONTAP システムからバックアップファイルをスキャンする場合は、次の手順を実行します。

1. Cloud Manager の上部で、* Compliance * をクリックし、* Configuration * タブを選択します。
2. 作業環境のリストで、フィルタのリストから * backup * ボタンをクリックします。

バックアップファイルがあるオンプレミスの ONTAP 作業環境がすべて表示されます。オンプレミスシステムのバックアップファイルがない場合、作業環境は表示されません。



3. 作業環境でバックアップされたすべてのボリュームをスキャンするには、* すべてのバックアップされたボリュームのコンプライアンスをアクティブ化 * をクリックします。

作業環境でバックアップされた特定のボリュームのみをスキャンするには、* をクリックするか、Volumes（ボリューム）を選択し、スキャンするバックアップファイル（ボリューム）を選択します。

を参照してください [ボリュームのコンプライアンススキャンの有効化と無効化](#) を参照してください。

オンプレミスボリュームをスキャンするか、それらのボリュームのバックアップをスキャンするか

作業環境のリスト全体を表示すると、ファイルをバックアップしている場合は、オンプレミスクラスタごとに 2 つのリストが表示されます。



最初の項目はオンプレミスクラスタと実際のボリュームです。2 つ目は、同じオンプレミスクラスタのバックアップファイルです。

オンプレミスシステム上のボリュームをスキャンする最初のオプションを選択します。2 番目のオプションを選択して、対象のボリュームからバックアップファイルをスキャンします。同じクラスタのオンプレミスボリュームとバックアップファイルの両方をスキャンしないでください。

データ保護ボリュームをスキャンしています

デフォルトでは、データ保護（ DP ）ボリュームは外部から公開されておらず、 Cloud Compliance はアクセスできないため、スキャンされません。オンプレミスの ONTAP システムまたは Cloud Volumes ONTAP システムからの SnapMirror 処理のデスティネーションボリュームです。

最初は、ボリュームリストでこれらのボリュームを *Type* DP ** でスキャンしていないステータス *** および必要なアクション *_* DP* ボリュームへのアクセスを有効にします ***。

'Working Environment Name' Configuration

☐ Activate Compliance for all Volumes | 22/28 Volumes selected for compliance scan

[Enable Access to DP Volumes](#)
[Edit CIFS Credentials](#)

Compliance	Volume Name	Type	Status	Required Action
<input type="checkbox"/>	VolumeName1	DP	Not Scanning	Enable access to DP Volumes
<input checked="" type="checkbox"/>	VolumeName2	NFS	Continuously Scanning	
<input type="checkbox"/>	VolumeName3	CIFS	Not Scanning	

これらのデータ保護ボリュームをスキャンする場合は、次の手順を実行します。

1. ページ上部の * DP ボリュームへのアクセスを有効にする * をクリックします。
2. 確認メッセージを確認し、もう一度「 * DP ボリュームへのアクセスを有効にする * 」をクリックします。
 - ソース ONTAP システムで最初に NFS ボリュームとして作成されたボリュームが有効になります。
 - ソース ONTAP システムで最初に CIFS ボリュームとして作成されたボリュームでは、それらの DP ボリュームをスキャンするために CIFS クレデンシャルを入力する必要があります。Cloud Compliance で CIFS ボリュームをスキャンするためにすでに Active Directory クレデンシャルを入力している場合は、それらのクレデンシャルを使用するか、別の管理者クレデンシャルを指定することができます。

Provide Active Directory Credentials

☒ Use existing CIFS Scanning Credentials (user1@domain2)
 ☐ Use Custom Credentials

Active Directory Domain
 DNS IP Address

DP Volumes, created from a SnapMirror relationship, do not allow external access by default. Continuing will create NFS shares from DP Volumes which have been activated for Compliance. The shares' export policies will allow access only from the Cloud Compliance instance. [Learn More](#)

[Enable Access to DP Volumes](#)
[Cancel](#)

Provide Active Directory Credentials

☐ Use existing CIFS Scanning Credentials (user1@domain2)
 ☒ Use Custom Credentials

Username
 Password

Active Directory Domain
 DNS IP Address

DP Volumes, created from a SnapMirror relationship, do not allow external access by default. Continuing will create NFS shares from DP Volumes which have been activated for Compliance. The shares' export policies will allow access only from the Cloud Compliance instance. [Learn More](#)

[Enable Access to DP Volumes](#)
[Cancel](#)

3. スキャンする各 DP ボリュームをアクティブ化します [他のボリュームも有効にした場合と同じです](#) をクリックするか、すべてのボリュームでコンプライアンスのアクティブ化 * コントロールを使用して、すべての DP ボリュームを含むすべてのボリュームを有効にします。

有効にすると、コンプライアンスのためにアクティブ化された各 DP ボリュームから NFS 共有が作成され、スキャンすることができます。共有のエクスポートポリシーでは、Cloud Compliance インスタンスからのアクセスのみが許可されます。

- ・注： DP ボリュームへのアクセスを最初に有効にしたときに CIFS データ保護ボリュームがない場合は、あとで追加しても、CIFS DP の有効化ボタン * が設定ページの上に表示されます。このボタンをクリックして、CIFS DP ボリュームへのアクセスを有効にする CIFS クレデンシャルを追加します。

Copyright Information

Copyright © 2021 NetApp, Inc. All rights reserved. Printed in the U.S. No part of this document covered by copyright may be reproduced in any form or by any means-graphic, electronic, or mechanical, including photocopying, recording, taping, or storage in an electronic retrieval system-without prior written permission of the copyright owner.

Software derived from copyrighted NetApp material is subject to the following license and disclaimer:

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY NETAPP "AS IS" AND WITHOUT ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE, WHICH ARE HEREBY DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL NETAPP BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

NetApp reserves the right to change any products described herein at any time, and without notice. NetApp assumes no responsibility or liability arising from the use of products described herein, except as expressly agreed to in writing by NetApp. The use or purchase of this product does not convey a license under any patent rights, trademark rights, or any other intellectual property rights of NetApp.

The product described in this manual may be protected by one or more U.S. patents, foreign patents, or pending applications.

RESTRICTED RIGHTS LEGEND: Use, duplication, or disclosure by the government is subject to restrictions as set forth in subparagraph (c)(1)(ii) of the Rights in Technical Data and Computer Software clause at DFARS 252.277-7103 (October 1988) and FAR 52-227-19 (June 1987).

Trademark Information

NETAPP, the NETAPP logo, and the marks listed at <http://www.netapp.com/TM> are trademarks of NetApp, Inc. Other company and product names may be trademarks of their respective owners.